



2024年6月28日

各 位

会 社 名 株式会社イー・ロジット
代表者名 代表取締役社長CEO 谷辻 昌也
(コード番号：9327 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役CFO兼経営管理部長 堀池 康夫
(TEL. 03-3518-5460)

上場維持基準への適合（流通株式時価総額）及び
上場維持基準への適合に向けた計画（純資産の額）（改善期間入り）について

当社は、2023年6月16日に「上場維持基準への適合に向けた計画」を提出し、その内容について開示しております。今般、株式会社東京証券取引所より、前期不適合であった流通株式時価総額について「上場維持基準（分布基準）への適合状況について」を受領し、2024年3月末時点においてスタンダード市場の上場維持基準に適合していることを確認いたしました。一方、当社は、2024年3月末時点において1,066百万円の債務超過となり、東京証券取引所が定める純資産の額に係る上場維持基準に抵触しております。

上場維持基準への適合状況及び債務超過解消に向けた取組について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準への適合状況の推移、計画期間及び改善期間

当社は、2023年3月末時点において、スタンダード市場の上場維持基準のうち、「流通株式時価総額」が適合していませんでしたが、「上場維持基準への適合に向けた計画」に基づく取組の結果、2024年3月末時点において「流通株式時価総額」に適合いたしました。一方、当社は、2024年3月期において、減損損失960百万円、事業所閉鎖損失引当金繰入額362百万円等を計上し、親会社株主に帰属する当期純損失2,466百万円を計上した結果、1,066百万円の債務超過となり、2024年3月末時点において東京証券取引所が定める「純資産の額」に係る上場維持基準に抵触しております。当社は、下表のとおり、今回不適合となった「純資産の額」基準を満たすために、上場維持基準への適合に向けた各種取組を進めてまいります。なお、純資産の額基準について、次の基準日である2025年3月31日までに適合（純資産の額が正となる）見込みである旨の開示ができなかった場合には、東京証券取引所より監理銘柄（確認中）に指定され、2025年3月期の有価証券報告書に掲載される財務諸表の内容を踏まえた東京証券取引所からの適合判定の結果、純資産の額基準に適合している状況が確認されなかった場合には、整理銘柄に指定された後、当社株式は上場廃止となります。

		株主数	流通株式数	流通株式 時価総額	流通株式比率	純資産の額
当社の適合状況 及び その推移	2023年3月末時点※	1,334人	16,883単位	9.4億円	48.2%	12.1億円
	2024年3月末時点※	1,526人	19,802単位	10.9億円	52.8%	△10.6億円
上場維持基準		400人	2,000単位	10億円	25%	純資産の額 が正
2024年3月末時点の適合状況		適合	適合	適合	適合	不適合
前回計画期間		—	—	2025年3月末 まで	—	—
今回計画期間 (改善期間)		—	—	—	—	2025年3月末

※ 当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等及び有価証券報告書をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準への適合に向けた取組の実施状況及び評価

当社は、上場維持基準の適合に向けて、①固定費の削減、②FC稼働率の向上、③アライアンス強化による総合提案力の強化、④IR活動の推進の4点に注力して、流通株式時価総額の改善に取り組んでまいりました。当事業年度においては、2023年9月にフルフィルメントセンター（以下、FCといいます。）1拠点の閉鎖を決定し、他のFCに業務を集約することで業務効率を図りました。さらに、2025年3月期中の3FCの閉鎖を決定しており、更なる固定費の削減を進めてまいります。また、FCの稼働率向上に向けて自動倉庫システム「RENATUS」の導入を決定し、当社の埼玉草加FCに施工いたしました。2024年5月には関係者に向けた内覧イベントを実施し、最先端技術を活用した自動倉庫システムを間近で体感し理解を深めていただく機会を設けました。

今後も引き続き上記取組を推進し、企業価値を向上させるよう努めてまいります。

3. 債務超過解消に向けた取組について

(1) 債務超過の原因

当社の主力事業であるBP0サービス事業は、これまでの積極的な拡大戦略の採用により、売上の増加を見越したFC戦略によるFC数の拡大に伴い固定費の増加が先行し、また、サービスレベルを維持するための余裕を持った人員確保など、変動費についても増加傾向で推移しておりました。しかしながら、売上の伸び悩みと、一方で近年の物価高騰に起因する配送費・人件費などの変動費の高騰が相まって、上記固定費等の削減が容易には困難であることから限界利益率の低下が顕著になり、結果として債務超過へ陥ることとなりました。作業生産性の改善や、固定費の中でも比率の大きい賃借料の削減を図るため、FCにおける坪数の適正化を検討し、既存FCの統廃合および転貸を実施し、原価賃料の大幅削減などの企業努力を進めてまいりました。

しかしながら、収益面での寄与及び固定費の削減効果の顕在化は2025年3月期以降を見込んでおり、当期においては、FC閉鎖に係る固定資産等の減損損失295百万円及び、FCの閉鎖に伴い生じる損失に備えて、事業所閉鎖損失引当金繰入額362百万円を計上することとなりました。また、2023年10月に連結子会社とした株式会社アビスジャパンにおいて、暫定的な処理をしていた企業結合日の残高に重要な会計上の修正すべき事項があることが判明し、将来の超過収益力が期待できなくなったことによるのれんの減損処理を実施し、減損損失468百万円を計上いたしました。

以上により、2024年3月期において1,066百万円の債務超過となっております。

(2) 債務超過の解消に向けた基本方針について

当社は、「4. 上場維持基準に適合していない項目ごとの課題と取組内容」に記載のとおり、事業面及び財務面での安定化を図り持続的な収支の改善を図るとともに、資本増強に向けた各種施策を推進し、当該状況の解消・改善に努めてまいります。

4. 上場維持基準に適合していない項目ごとの課題と取組内容

純資産の額基準

① 売上高・売上総利益の向上及びFCの自動化による収益性の向上

当社の主力事業であるBPOサービス事業において、デジタルマーケティング及びコンタクトセンターの領域に精通する企業との連携を強化し、当社が得意とするEコマース分野におけるフルフィルメントサービスを掛け合わせ、Eコマース領域におけるサービスをワンストップで提供することでより高付加価値のサービスを提供し、顧客満足度を損なうことなく、価格に転嫁していくことで、収益性の向上を図ります。また、当社FCの生産性及びサービス品質向上のため、FCの自動化を進め、自動倉庫システム「RENATUS」の導入や、他のマテハン機器等の自動化設備の導入を推進し、自動化・省人化による大量出荷時の人件費抑制、生産性及び設備稼働率の向上を図ることで収益性の向上に努めます。

さらに、他社との連携やFC自動化と並行して、大型新規案件の受注及び新規案件の大量出荷に耐えうるオペレーションの確立を構築してまいります。

② 新たなビジネスモデルの構築

上記①で記載した自動倉庫システム「RENATUS」の当社FCでの稼働に加え、当社FCを「RENATUS」ショールームとして活用することで、当社グループの顧客企業等への「RENATUS」の販売支援・保守を推進し、フルフィルメントサービス以外の新たなビジネスモデルの構築を図ってまいります。

③ 固定費の大幅な削減

当社では、FCの坪数の適正化を検討し3拠点を閉鎖することにいたしました。これにより、固定費の中でも特に比率の大きい賃借料の削減を図ることができ、また既存の他のFCに経営資源を集約することにより業務効率の一層の改善と経費削減に努め、早期の収益性の向上を目指してまいります。

④ 財務基盤の安定化

2023年10月30日に発行した第6回新株予約権の行使が2023年11月に複数回行われ142,200千円を調達いたしました。しかしながら、当初行使価額を下回る水準で株価が推移していることから、2024年6月25日付「第三者割当による第6回新株予約権の行使価額の修正に関するお知らせ」に記載のとおり、割当先との間で行使価額を下方修正することについて合意いたしました。当社の株価水準を適切に本新株予約権の行使価額に反映することにより、行使を促進し資金調達を進めてまいります。また、当社の財務状態に鑑み、当社FCの閉鎖費用及び運転資金を機動的に調達するため、2024年6月25日付「資金の借入枠設定に関するお知らせ」に記載のとおり、総額500,000千円の借入枠を設定することを決議し、契約を締結しております。

なお、当社は、2024年6月19日付「連結子会社の異動に関するお知らせ」に記載のとおり、連結子会社であった株式会社アビスジャパンを連結の範囲から除外しており、これにより、2024年3月末時点の実質的な債務超過額は当社単体における279百万円まで圧縮されております。

今後も引き続き、経営基盤の再構築と債務超過の早期解消による経営安定化を目的として、増資を含めた資金調達を検討してまいります。以上の取組を推進することにより、2025年3月期中に債務超過を解消し、純資産の額に係る上場維持基準への適合を目指してまいります。

以上